

追悼のつどい 亡くなられた被害者に思いを馳せて



2012年12月に台湾で開かれた日本軍「慰安婦」問題解決アジア連帯会議で、韓国の金学順さんが日本軍「慰安婦」制度の被害者として名乗り出た1991年8月14日をメモリアル・デーと定め、2013年から世界各地で様々なイベントが開かれています。

wamでは、訃報が届いた女性たちにお花を捧げる「追悼のつどい」を2017年から開いてきました。今年も故人を知る人からメッセージを頂きながら、生き抜いた女性たちに想いを馳せ、偲ぶ時間を持ちます。ぜひご参加ください。

日時：2024年8月14日（水）11:00-12:00

場所：wam エントランス

定員：20名（予約制・先着順） 平服でご参加ください。

*オンライン配信はありません。右記二次元コードから Google フォーム
または wam 事務局にお電話でお申し込みください。



この1年に訃報が届いた女性たち(2024年7月12日現在)

中国	王志鳳さん	2023年8月29日 死去	楊さん	2023年8月30日 死去
	李美金さん	2023年11月9日 死去	欧陽さん	2024年2月14日 死去
	沈さん	2024年2月18日 死去	劉年珍さん	2024年2月27日 死去
フィリピン	フェデンシア・ダビッドさん	2023年12月18日 死去		

会員になりませんか？

●友の会年会費：3,000円 ●維持会員年会費：10,000円

会員にはニュースレター(年3回)のほかイベント案内などを逐次おしらせします。
維持会員は入館料無料。各種セミナーや刊行物の割引もあります。

郵便振替口座番号：00110-2-579814

口座名称：「女たちの戦争と平和人権基金」係

wam

アクティブ・ミュージアム

女たちの戦争と平和資料館

women's active museum on war and peace

開館時間：金・土・日・月 13:00~18:00

2月11日、2月23日、4月29日、11月3日は
「祝わない」ため開館

休館日：火・水・木・祝日(天皇制由来の上記4日を除く)

※時間外の団体来館はご相談ください。
※展示入れ替え期間と年末年始は休館となります。

入館料：18歳以上 500円

18歳未満 300円

小学生以下 無料

※障害のある方の付き添いは無料です。



和解という名の暴力

韓国の日本文学研究者、朴裕河さんが著した『和解のために一教科書・慰安婦・靖国・独島』（平凡社、2006年）が大佛次郎論壇賞を受賞し、「自国のナショナリズムを批判する韓国の良心がやっと現れた」と称揚されたできごとは、日本社会に深く内在する植民地主義のありようを改めて認識する機会となりました。

2014年には、被害者による名誉棄損の訴えで話題にもなった『帝国の慰安婦』（朴裕河著、朝日新聞出版）が出版されましたが、文学者の手によるこの書籍は歴史研究者から綿密な検証がなされ、すでに歴史学の文献として扱えないことは明らかになっています。それでもなお、著名な知識人や全国紙が彼女の発言を重んじるのはなぜなのでしょう？

本シンポジウムでは、植民地主義を思想史的に批判してきた早尾貴紀さん、韓国での性搾取の問題にとりくんできた古橋綾さんをゲストに迎えて、継続する日本の植民地主義の視点から「和解」を考えます。

「和解」はなぜ心地よく響くのか。「和解」を称揚し、拡散する言論空間は、日本社会にどのような影響を与えているのか。そもそも誰のための「和解」なのか？ この課題を指摘し続け、昨年急逝した徐京植さんの論文からシンポジウムのタイトルを借用しました。ぜひご参加ください。

日時：2024年8月14日(水) 14:00-17:00

場所：AVACO チャペル(wamと同じ階)

定員：70名(予約制・先着順) 参加費：1000円

*申し込みは右記二次元コードから Google フォームで。
会場参加のみ、電話(03-3202-4633)での予約も受付けます。
*オンラインあり(翌日夕方から2週間のオンデマンド配信)



登壇者



和解論の欲望

日本人リベラリストたちは
どこで躓いたのか

早尾貴紀さん (はやお・たかのり 東京経済大学教員)
パレスチナ/イスラエル問題、社会思想史。東北大学在学中に宋神道さんの裁判支援運動に関わる。主な著書に『希望のディアスポラ—移民・難民をめぐる政治史』（春秋社、2020年）、『パレスチナ/イスラエル論』（有志舎、2020年）、主な共編著に『ディアスポラから世界を読む—離散を架橋するために』（明石書店、2009年）、『残余の声を聴く—沖縄・韓国・パレスチナ』（明石書店、2021年）、主な共訳書にサラ・ロイ『ホロコーストからガザへ—パレスチナの政治経済学』（青土社、2009年）、イラン・パペ『パレスチナの民族浄化—イスラエル建国の暴力』（法政大学出版局、2017年）。



フェミニスト視点から 和解論を考える

古橋綾さん (ふるはし・あや 岩手大学教員)
社会学、ジェンダー研究。韓国で日本軍「慰安婦」運動、米軍基地村女性支援運動、反性売買運動などにかかわってきた。主な翻訳書に韓国挺身隊問題対策協議会『記憶で書き直す歴史—「慰安婦」サバイバーの語りを聴く』（岩波書店、2020年）、康誠賢『歴史否定とポスト真実の時代—日韓「合作」の「反日種族主義」現象』（大月書店、2020年）、ポムナル『道一つ越えたら崖つぶち—性売買という搾取と暴力から生きのびた性売買経験当事者の手記』（アジュマ、2022年）、共編著に『ジェンダー分析で読む女性史入門』（岩波書店、2021年）、『韓国学ハンマダン』（岩波書店、2023年）。